






平成30年度 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」学生募集要項

[平成30年度 博士課程教育リーディングプログラム
「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」学生募集要項](#) 

- [出願書類一覧](#) 
- [\(様式1\) 履修願書](#) 
- [\(様式2\) 出願理由書](#) 
- [\(様式3\) 推薦書](#) 

【出願期間】

平成30年1月22日（月）～2月2日（金） 9時～17時*

*最終日のみ12時まで（郵送の場合も2月2日必着とする）



平成 30 年
1 月 5 日版

東北大学

Tohoku University

文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型 (安全安心)
Program for Leading Graduate Schools, MEXT
Multidisciplinary Field of Safety and Security

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

Inter-Graduate School Doctoral Degree Program on

Science for Global Safety

募 集 要 項

Application Guideline

平成 3 0 年度

Academic Year 2018

東北大学学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門
グローバル安全学教育研究センター
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6 - 6

Division for Leading Graduate School Programs,
Tohoku University Institute for Promoting Graduate Degree Programs
Center for Education and Research on Global Safety
6-6, Aramaki Aza Aoba Aoba-ku, Sendai, Miyagi

グローバル安全学トップリーダー育成プログラムについて (アドミッション・ポリシー)

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災から六年以上が経過するが、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていない。さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっている。現在の状況は、我国の将来を決める決定的ターニングポイントに差し掛かっているといても過言ではない。本学は、被災地に位置する大学として、東北復興を先導する大きな責任を負っていると共に、強い社会的要請である安全安心な社会の実現に向けて強い使命感を持っており、安全安心な社会構築に貢献できるリーダー養成を本学の使命と認識している。

東日本大震災の教訓として、科学技術のみによる防災の限界と社会科学的視点からの減災の重要性が明らかとなった。このことから、大震災からの復興や今後発生が予測される多様なリスクからの被害を抑制するには、科学技術の活用と、それを人間起点で社会システムに取り入れるための人文社会科学分野の貢献が重要である。

本プログラムの人材養成目的は、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティなどの多様なリスクの発生メカニズムを理解し、複数の Science discipline を合目的に統合して、防災および減災などのための工学的・社会科学的システム設計ができるグローバル安全学分野のトップリーダー人材を育成することである。この目的のために、科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という3つの視点からリーダーを養成する。

本プログラムは、博士課程前・後期（5年）一貫の教育プログラムであり、地球惑星科学・環境科学をはじめとする自然科学、土木工学・都市・建築学・機械工学などをはじめとする工学、哲学・心理学・倫理・公共政策分野を中心とした3つの学術コアとその複合領域において、安全安心な社会構築の視点で東北復興の先導に貢献できる人材の育成や、人類社会の持続性に寄与すると共に、産業・社会システムの構築による安全安心な社会の構築に寄与できる人材育成を行う。

本プログラムでは、安全安心を「知る」「創る」「生きる」三つのユニットに対応して、次の3つのコースを設ける。

- 自然災害科学コース
- 安全・安心工学コース
- ヒューマンサイエンスコース

これらのコースにおいて、以下の能力をもつ人材（金平糖型人材）の育成を目指す。

- ・先鋭化された研究を通じた専門能力の核（コア）を有すると共に、多様な課題解決のための応用能力（シェル）を有する人材

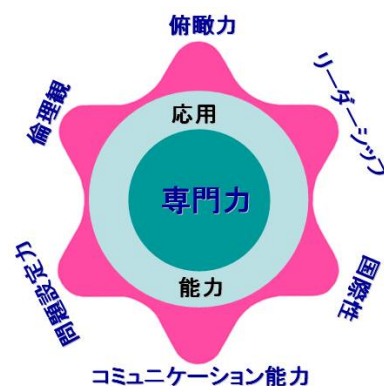


図1 金平糖型人材

- ・ 課題設定と問題解決、研究開発、事業展開、グランドデザインなどの筋道を自ら設定して実践する能力を有する人材
- ・ 事象を俯瞰して整理し、自身の考えを的確に相手に伝える能力を有する人材
- ・ 国際舞台でリーダーシップを発揮できる資質を有する人材
- ・ リーダーとしての倫理観と責任感を有する人材

上記の能力を持つリーダー人材において期待されるキャリアは以下のものを想定している。

「国際的企業リーダー」：国際的視野を持ち自然災害や経済リスクなど多様なリスクに対する的確な評価と対策を行うことができ事業継続マネジメントが可能なリーダー

「アカデミックリーダー」：コアディシプリンにおける国際レベルの研究者であると共に、広い視点から学問を教授できるリーダー

「国・地域防災リーダー」：行政機関・研究所や防災センターなどにおいて国家や地域の防災政策をリードするリーダー

「国際的リスク管理リーダー」：国際機関などで世界的視点から多様なリスクに対する危機管理が可能なリーダー

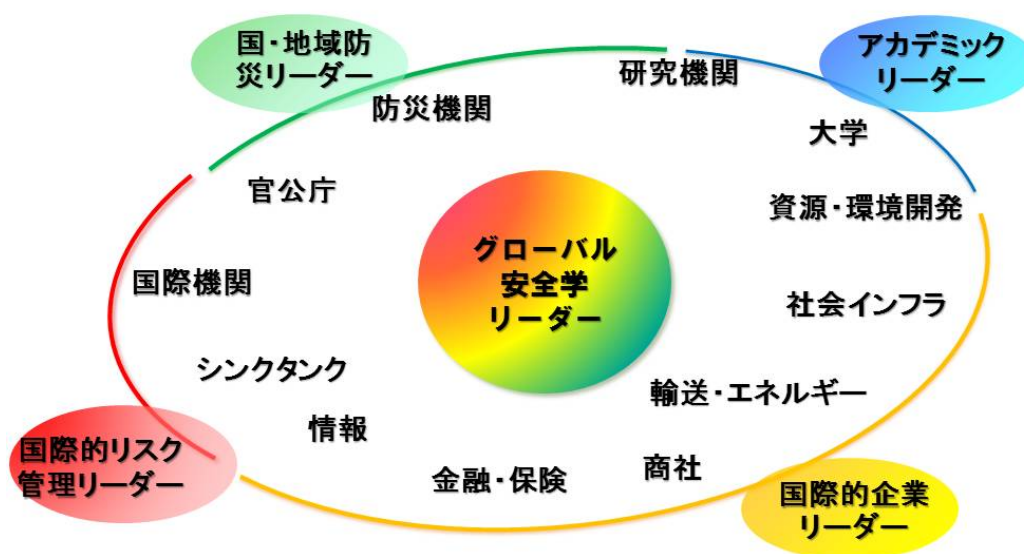


図2 修了後期待されるキャリアパス

・募集人員及び出願資格

- 1 . リーディングプログラム院生の募集人員

今年度新規に採用するリーディングプログラム院生(以下プログラム院生)は10名程度とする。

願書を提出した学生に対して書類選考および面接選考を行い、4月以降のプログラム院生を10名程度選抜する。

- 2 . 出願資格

- ・平成29年度に表1の研究科・専攻の博士前期課程1学年に在籍している者。
- ・平成30年度に表1の研究科・専攻の博士後期課程に進学予定または他大学等から編入学予定の者。

ただし、大学院入試の合否が出願締切後に発表される者についても出願は可能とする。

注)本プログラムは、平成31年3月に終了予定であり、博士課程修了時までの支援を約束するものではありません。プログラム終了に伴う対応については、現在検討中です。

表1 グローバル安全学トップリーダー育成プログラムに参画している研究科・専攻

文学研究科	文化科学専攻、人間科学専攻、歴史科学専攻
法学研究科	法政理論研究専攻
経済学研究科	経済経営学専攻
理学研究科	天文学専攻、地球物理学専攻、地学専攻
工学研究科	機械機能創成専攻、ファインメカニクス専攻、ロボティクス専攻、航空宇宙工学専攻、量子エネルギー工学専攻、電気エネルギーシステム専攻、化学工学専攻、土木工学専攻、都市・建築学専攻、技術社会システム専攻
情報科学研究科	人間社会情報科学専攻、応用情報科学専攻
環境科学研究科	先進社会環境学専攻、先端環境創成学専攻
医工学研究科	医工学専攻

・リーディングプログラム院生の募集

- 1 . 出願書類

以下の(1)～(2)を本プログラムのホームページより入手すること。

(1) 出願書類 1式

(2) 募集要項 1部

URL <http://g-safety.tohoku.ac.jp/>

配布期間：平成30年1月5日(金)～2月2日(金)

- 2 . 出願手続

東北大学グローバル安全学教育研究センター事務室に、願書一式を調べて受付期間内に提出すること。

受付場所(送付先)：

〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11

東北大学工学研究科 総合研究棟9階

東北大学グローバル安全学教育研究センター 事務室

直接持参する場合は、下記のURLにて場所をご確認ください。

<http://g-safety.tohoku.ac.jp/access/>

受付期間：平成30年1月22日(月)～2月2日(金)9時～17時

(最終日2月2日は正午受付終了)

郵送の場合も、2月2日(金)必着とする。

出願者に対しては、後日メールにて受験番号を通知する。

- 3 . プログラム院生の選抜方法

出願者が提出する出願理由書及び願書・指導教員の推薦書等による書類審査、ならびに面接審査を行って選抜する。面接審査は平成30年2月27日(火)に行う。詳細は、申請者に別途通知する。

4 . プログラム院生の合格発表

平成30年3月中旬以降にグローバル安全学トップリーダー育成プログラムのホームページ上で発表する。

URL <http://g-safety.tohoku.ac.jp/>

・奨励金の支給

国内外の優秀な学生を獲得し、主体的に独創的な研究を計画・実践させ、グローバルに活躍するリーダーを養成するため、本学位プログラムに選抜された優秀な博士課程学生への支援経費として平成31年3月まで奨励金を支給する。

支給金額については、選抜審査の成績等に基づき決定する。

・博士論文研究基礎力審査

入学後、一定の時期に、学業成績・単位取得状況・英語能力等の審査（博士論文研究基礎力審査 Qualifying Examination: QE）を実施する。審査に不合格となった場合にはプログラム院生の資格を失うので、所属する研究科の卒業要件をよく理解した上で応募すること。

・プログラム院生決定までの流れ

上記の手順を図示すると以下のとおりである。

時期	手続き項目
H30年 1月5日～	出願書類・募集要項の配布 (グローバル安全学教育研究センターホームページ)
1月22日～2月2日	出願書類の受付 (グローバル安全学教育研究センター事務室)
2月27日	プログラム院生の選抜 (面接審査)
3月中旬～	プログラム院生の合格発表 (グローバル安全学教育研究センターHP)
4月	平成30年度入学生プログラム開始

VI . 博士後期課程からの編入生の履修要件について

リーディングプログラム3年次(D1)より編入した学生が、3・4・5年次のリーディング科目に加えて、修得しなければならない1・2年次のリーディング科目は、以下のとおりです。

【基幹科目】

- ・ 2単位以上。ただし、2単位のうち1単位以上はグローバル安全学、またはより選択履修すること。

【マルチディシプリナリ科目】

- ・ 実践的防災学国際講義Ⅰ、Ⅱ、実践的防災学～から2単位以上

【研修科目】

- ・ Cラボ研修から2単位以上
- ・ グローバルコミュニケーションスキル研修Ⅰ(2単位)

・ その他

本プログラムに選抜された学生は、日本学術振興会特別研究員に応募すること。

平成 30 年度

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム出願書類

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム出願書類：
平成 30 年 2 月 2 日（金）正午締切（郵送の場合も 2 月 2 日必着）

書 類	注 意 事 項
履修願書（様式 1） 手書き不可	所定の用紙に記入してください（手書き不可）。 英語能力検定試験の成績を記入する場合は、 <u>スコア等を証明する書類の写しを添えて提出してください。</u>
出願理由書（様式 2）	アドミッション・ポリシーを熟読した上で、所定の用紙に記入してください。
推薦書（様式 3）	出願者の大学院での受入れ予定教員が所定の用紙に記入し、 <u>厳封</u> の上、提出してください。（自己評価は不可）
成績証明書（学部時または高等 専門学校時のもの）	出身大学学部長、または高等専門学校等の学校長が発行したものを提出してください。 高等専門学校より編入学した方は、学部・高等専門学校の両方の成績証明書が必要となります。
学生証の写し	【平成 29 年度本学大学院在籍者のみ】 本学大学院の学生証の写しを提出してください。

受験番号 _____



3×4cmの写真を
貼り付けてくださ
い。(裏面に氏名記
入のこと)

博士課程教育リーディングプログラム
「東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」
平成30年度 履修願書(手書き不可)

平成30年 月 日

ふりがな 氏名			(国籍:)	男女 女
生年月日	年 月 日 (満 歳)			
所属(現在)	大学	学部・研究科	学科・専攻	
所属(平成30年4月以降)	東北大学	研究科	専攻	研究室
学籍番号				
指導教員名	東北大学	研究科	専攻	
連絡先(現在)	Tel. (研究室 -)		E-mail	
連絡先(平成30年4月以降)	Tel. (研究室 -)		E-mail	
緊急連絡先	氏名		本人との続柄	
	住所 〒			
	Tel.(固定)			
	Tel.(携帯)			
奨学金・他の奨励金受給の有無 (TA・RA含む) あてはまるものに をつけること。	1 有		2 無 1の場合、具体的な名称、受給期間、及び受給額を記入してください。	
外国語レベル(注1) TOEFL TOEIC スコア 点(年 月 受験)	その他語学能力に関する特記事項があれば記入してください。			
博士後期課程への進学予定 あてはまるものに をつけること。	1 有(合格済 受験予定)		2 無	
当プログラムの受験 あてはまるものに をつけること。	1 昨年度受験	当プログラム TA・RA採用の有無	1 有	2 無
	2 無	あてはまるものに をつけること。	2 無	
マルチディメンジョン物質理工学 リーダー養成プログラムとの併願の有無 あてはまるものに をつけること。	1 有		2 無	

注1) 英語能力検定試験(TOEFL、TOEIC)を受験している場合のみ記入し、**スコア等を証明する書類の写しを添えてください。**

注2) 印欄は記入しないでください。

受験番号 _____

略 歴 (入学・進学予定まで記載すること)		
年 月	高等学校 卒業 ・ 大検取得	
年 月	大学	学部 学科 入学
年 月	大学	学部 学科 卒業
年 月	大学大学院	研究科 専攻博士課程前期 入学・入学予定
年 月	大学大学院	研究科 専攻博士課程前期 修了・修了予定
年 月	大学大学院	研究科 専攻博士課程後期 進学・進学予定
職 歴		
年 月		
年 月		
年 月		
社会活動歴(復興への貢献などの社会貢献活動歴)		
年 月		
年 月		
年 月		
留学経験		
期間	留学先(機関名、国名)	内容(留学、短期研修、インターンシップなど)
年 月～ 年 月		
年 月～ 年 月		
<p>これまでの研究業績 (1~4 まで該当があるものについては、すべてご記入ください)</p> <p>1. 学術論文等への発表：著者(ファースト・オーサーに下線)、発表論文名、雑誌名、発表年月巻号等</p> <p>2. 国際学会発表：学会名、発表題目名、口頭・ポスター等の形式、発表年月等</p> <p>3. 国内学会発表：学会名、発表題目名、口頭・ポスター等の形式、発表年月等</p> <p>4. 受賞等：賞の名称、賞の授与団体、授与年月日等</p>		

必要に応じて欄を広げてご記入ください。

出 願 理 由 書

記入しないでください。

ふりがな
氏 名

「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」のアドミッション・ポリシーを熟読した上で、以下の(1)～(6)についてあなたの考えや思いを具体的にわかり易く書いてください(英語での記載も可能です)。(7)はこれまでの研究業績がある場合に記載してください。記入にあたっては各項目の枠内に収まるよう記載してください(フォントサイズ 10.5pt、日本語で記載の場合は 400 字程度まで、英語で記載の場合は 200 語程度までを目安として下さい)。

(1) 社会が求めるリーダー像とはどのようなものか、あなたの考えを書いてください。

(2) 本プログラムの履修に何を期待し、何を学びたいか書いてください。

(3) 本プログラム修了後のあなたの将来展望について書いてください。

(4) 異分野の研究者と交流することが、安全安心な社会構築にどのような視点から貢献できると思いますか。

(5) 自己の長所と短所を書いてください。

(6) 研究以外で直面した困難なことに対して、あなたはどのようにして乗り越えたかを書いてください。

(7) これまでの研究業績がある場合は、記載してください。

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム責任者 殿

わたしは、本リーディング大学院プログラムの趣旨にもとづき、学生が研究室以外での各種活動に参加することを理解のうえ推薦いたします。

(推薦者氏名) _____ 印
署名または記名捺印
(所属) _____ 研究科 _____ 専攻

推 薦 書

合格研究科 (専攻)名	研究科 専攻	出願者氏名
----------------	-----------	-------

大学院での受入れ予定教員（現在大学院に在籍している学生については、現在の指導教員）をご記入ください。「出願者の課題に取り組む姿勢はどうか」、「着想力やコミュニケーション能力はどうか」、「学生の進路について」、「多様な分野で活躍するリーダーとしての将来性」を含めてください。ただし他大学からの大学院入学予定者については、入試成績及び面接評価等にもとづいて、全般的な評価をご記載ください。なお、「学生の進路について」の項目は、該当するものに をつけてください。

学生の進路について (後期課程への進学 について)	1. 確実に進学する。 2. 進学する可能性が高い。 3. たぶん進学しない。 4. 現在就職活動を行っている。 5. 公務員試験を受験予定。